

SHIKŌ 個展『無限について』

■会 期	2022年4月2日(土)～2022年5月7日(土)
■開 廊	水～土:13:00～19:00(日・月・火・祝 休廊)
■会 場	KANA KAWANISHI GALLERY 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-6 白河和楽ビル1F ※ギャラリー前に車をお停めいただけます
■作 家	SHIKŌ(晃潤+長谷川寛示+伊佐治雄悟)



SHIKŌ #1

2022 | Lego, bayberry wood, discarded wood, copper wire, cashew lacquer, gold leaf, dried leaves | H190 × W330 × D180 mm
© SHIKŌ (Kojun + Kanji Hasegawa + Isaji Yugo), courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

KANA KAWANISHI GALLERYは、2022年4月2日(土)よりSHIKŌ個展『無限について』を開催いたします。

米国人である晃潤(こうじゅん/ジョナサン・ハーロウ)を中心に、長谷川寛示、伊佐治雄悟の3名のアーティストから成るアーティストユニット・SHIKŌ(しこう)の初個展は、3名がそれぞれの関心事やコンセプトや素材や制作技法を交換しあう準備期間を経て、ようやくこのたびの初個展を迎えます。

晃潤を中心にユニットとして活動をするSHIKŌの作品には、仏像がモチーフとして頻繁に登場します。「仏像」とは、仏陀となった釈迦(ゴータマ・シッタッタ)の像を本来は指しますが、仏陀となった偉大な釈迦の姿は、元来は人の手で表現できないものと思われており、例えばインドの初期仏教美術の仏伝図(釈迦の生涯を表した浮き彫りなど)でも釈迦の姿は決して表れず、足跡、菩提樹、台座などによってその存在が暗示されるのみでした。その後、仏教の創始から500年後とも600年後とも言われる時を経て徐々に釈迦の姿が仏像としてこの世に現出しはじめますが、SHIKŌの提示する仏像は、例えば西洋に渡った仏教思想が文化の伝搬を経て再び日本に現れるということ、あるいは伊佐治雄悟の技法により融解したプラスチックの集合体として抽象化された仏像が提示されること、あるいは曹洞宗・永平寺での修行を経て出家した僧侶でもある長谷川寛示の手で仏具の伝統的技法で制作された木彫の植物を伴っていることなど、いくつもの考察がレイヤーを成します。

3人の個性が化学変化を誘発し合いながら実現するこの度の初個展を、是非お見逃しなくご高覧いただけますと幸いです。



SHIKŌ #2

2022 | W160 × D120 × H320 mm

plastic bottle, bayberry wood, copper wire, cashew lacquer, gold leaf

© SHIKŌ (Kojun + Kanji Hasegawa + Isaji Yugo)
courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



SHIKŌ #3

2022 | W280 × D130 × H280 mm

Lego, bayberry wood, copper wire, cashew lacquer, gold leaf

© SHIKŌ (Kojun + Kanji Hasegawa + Isaji Yugo)
courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



IHVKM02020

2020 | W115 × D75 × H92 mm

Gloss finish gold leaf over ABS thermoplastic viewer / Washi diffuser with gold kindei wash

© Kojun, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



Kensho 2720

2019-2020 | UV print of digital photograph on pewter leaf on paper, mounted in Japanese silk scroll

image: 893 × 509 mm, scroll: 1859 × 668 mm

© Kojun, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



Flower and Vase_4

2021 | Japanese cypress, gold leaf, ceramic
H630 × W350 × D250 mm

© Kanji Hasegawa, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



A Girl with a Flower

2019 | Japanese cypress, gold leaf, antique glass, copper wire
H320 × W100 × D130 mm

© Kanji Hasegawa, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY



greeble the space 01

2021 | plastic model

© Isaji Yugo, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY
photo by Ujin Matsuo



greeble the space 02

2021 | plastic model

© Isaji Yugo, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY
photo by Ujin Matsuo

アーティストステートメント

晃潤 (Jonathan Harlow) を中心に集まった伊佐治雄悟、長谷川寛示。
仏教への興味を共通の話題として始まった共同制作は、作品を介して行われる対話のようだった。
この対話はzoomの画面越しに、郵送による遠隔の共同作業により、徐々に形を成していった。
不立文字。言葉では表せないものを仏教は説くが、我々のこの対話はどうだろう。
作品を通して共有される三人の思考、試行、嗜好...
ものを作るというコミュニケーションを経て生まれた奇妙な偶像是、何を伝えうるだろう。

—長谷川寛示

私がアジア系ということもあってか、スウェーデンで知人に「僕のfavorite religionは仏教だよ」と言われた事がある。宗教に好き嫌いもないものだろうと私は面食らったが、確かにそうやって自分で宗教を選択する態度があってもいいかも知れない。彼は実際に仏教徒になったりお寺に行くわけではないので、知識として仏教を楽しんだのだろう。そういう意味では私のfavorite religionも仏教である。

そのなかでも、私の頭を離れないのは「仏説般若波羅蜜、即非般若波羅蜜、是名般若波羅蜜：仏の般若波羅蜜多と説くは即ち般若波羅蜜多に非ず、是を般若波羅蜜多と名付く」という鈴木大拙のいう「即非の論理」である。「AはAでないことを、Aと呼ぶ」という全く筋が通らないことに、作家として共感を覚えるのだ。確かに作品制作には筋道だった考え方が通用しない。またこの「論理」は、言葉や物の持っている多面性も示している。聞こえているものや見えているものが、その本質であるとは限らない。ただの面白い考え方と割り切ってもいいが、私にとっては実際にそうなのだ。

—伊佐治雄悟

師匠は、その一言で悟った、
「なんだ、禪ともあろうに、仏法には何のわけもなかった」

「質問、どういものが真実の仏であり、真実の法であり、真実の道でしょうか？
どうか、お示ください」

師匠、「仏とは君の心が浄らかなこと、法とは、君の心の輝き、
道とは心がどこもさえぎられないで、浄らかに光ることだ。」

「清浄とは空であり、空とはものに即してものに執しないこと」
—臨濟録、柳田聖山訳—

白隠禪師が、「動中の工夫は静中に勝ること百千億倍す」と仰っています。
日々突発的に現れる機会に即して、その辺りを模索しています。

—晃潤

アーティストプロフィール

晃潤(こうじゅん)

1977年、アメリカ生まれ。1999年より東京を拠点に活動。2019年より晃潤(こうじゅん)の名のもと、独学のマルチメディアアーティストとして活動。

長谷川 寛示(はせがわ・かんじ)

1990年、三重県生まれ。2014年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業、2016年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。同年、曹洞宗大本山永平寺にて修行を経て僧侶となる。主な個展に『My Sútra』(2019、KANA KAWANISHI GALLERY、東京)、『ALLDAY TODAY』(2018年、Gallery HIROUMI、東京)、『RESEARCH&DESTROY』(2015年、CC4441、東京)など。グループ展に『Some kinda freedom』(2021年、KANA KAWANISHI GALLERY、東京)、『CC NIGHT -PLAY ANARCHY-』(2015年、CC4441、東京)など。

受賞歴に「sanwacompany Art Award / Art in The House 2019」ファイナリスト選出、「前橋アートコンペライブ2012」秋元雄史賞など。

伊佐治 雄悟(いさじ・ゆうご)

1985年、岐阜県生まれ。2008年多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2019年公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員としてスウェーデンに滞在。主な個展に『Second Hand World』(2020年、Art Center Ongoing、東京)、『rehabilitation』(2020年、Gallery Bageriet、スウェーデン・ヨーテボリ)、『SHOW CASE GALLERY』(2020年、横浜市民ギャラリーあざみ野、神奈川)など。グループ展に『きのふいらしつてください』(2020年、彗星倶楽部、石川)、『正しい歪み方』(2019年、Koganei Art Spot シャトー2F、東京)、『輸送芸術』(2017年、伊日美術台中藝術空間、台湾・台中)など。